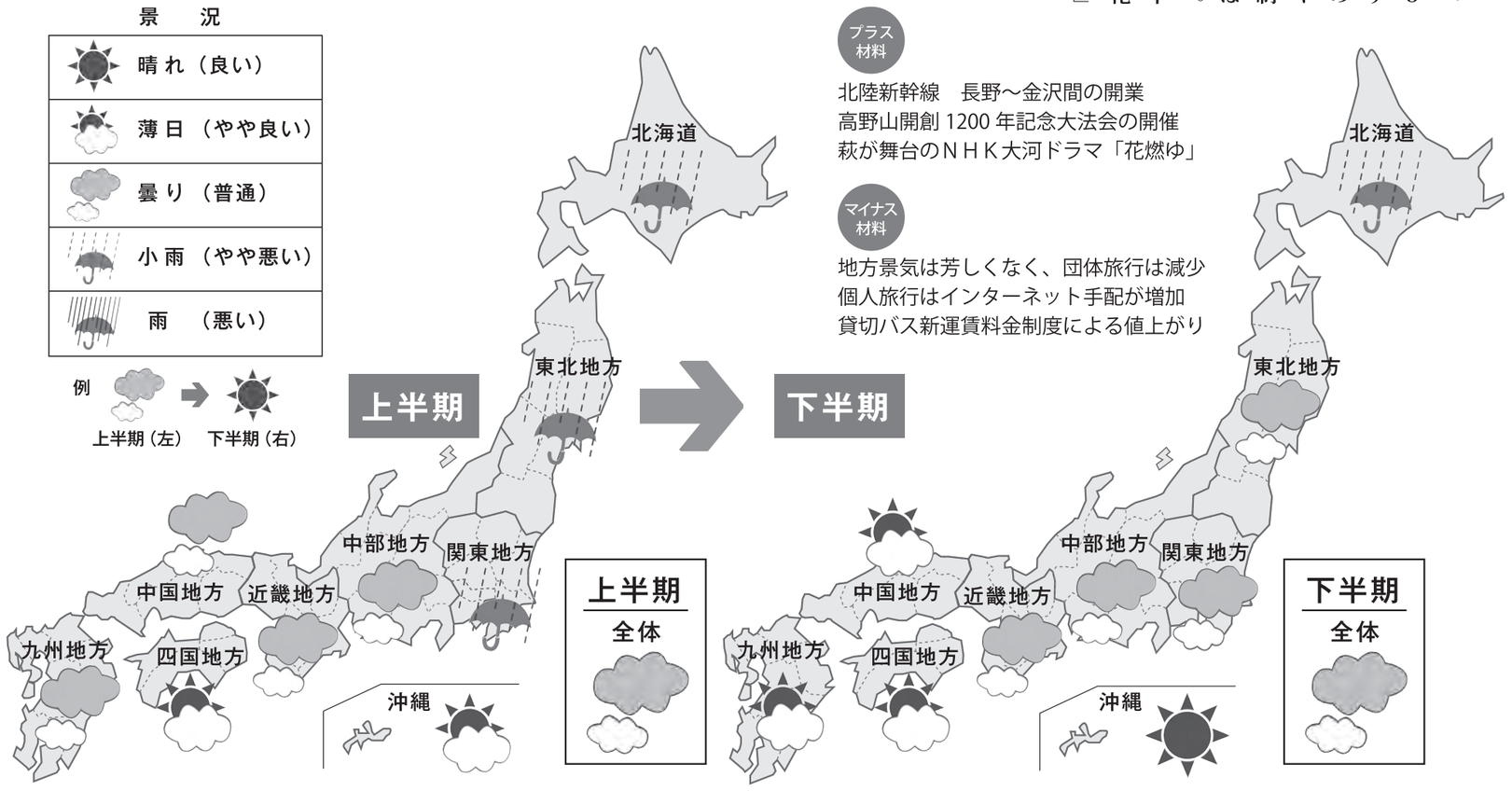
観光立国の実現は地方（地域）から

# 2015年の観光
# 環境厳しく北「小雨」話題豊かな西「薄日」

観光経済新聞社は、全国旅行業協会（ANTA、二階俊博会長）の47都道府県支部長に「2015年の観光市場」を予測してもらった。天気で表すと日本全体は上半期も下半期も「曇り」。地方の景気は芳しくなく団体旅行は減少、個人旅行はインターネット手配に流れ、貸切バス新運賃料金制度の影響などもあり、中小の旅行会社にとっては厳しい環境が続く。そのため北では「小雨」模様。一方、北陸新幹線の開業、高野山開創1200年記念大法会、萩が舞台となるNHK大河ドラマ「花燃ゆ」などのイベントや話題がある西では「薄日」が差している。

## ANTA47支部長の予測




プラス材料
北陸新幹線　長野～金沢間の開業
高野山開創1200年記念大法会の開催
萩が舞台のNHK大河ドラマ「花燃ゆ」

マイナス材料
地方景気は芳しくなく、団体旅行は減少
個人旅行はインターネット手配が増加
貸切バス新運賃料金制度による値上がり

佐賀県

### 団塊の世代 特に主婦層を狙え

村山輝昭支部長

最近の円安傾向で上半期は訪日外国人客で良好に推移していくものと考えた。国内旅行については、バス料金改定によりツアー代金が上がってきており、お客さまに浸透してきたものの、まだまだだ。今後は景気の動向次第だ。下期については、衆議院選挙も予想通り与党が圧勝し、景気も上向くものと思われ、国内、海外旅行とも順調に伸びるとの予測だ。なお、今後とも団塊の世代、特に主婦層をターゲットにすべきだ。

長崎県

### キリスト教遺産やDC 明るい材料あり上向き

岩本公明支部長

今年は世界農業遺産登録が5月に、またキリスト教関連遺産登録が、2016年に予想されることから、インバウンドを含めた県内への増客が見込まれ、景気が上向くことにより地場旅行業界に反映されることが期待される。また、16年秋にはJRデスティネーションキャンペーンが行われることも併せて、雰囲気的には明るい材料がある。以上、長崎県としては今年後半から観光市場はやや上向きになることが予想される。

熊本県

### 県支部独自の「地旅」 造成、販売をさらに

藉塚雄二支部長

過度の価格競争体質と、旅行会社を通さない旅行の増加、若年層の海外旅行離れやインターネットの普及や貸切バスの新運賃制度導入により、中小の旅行代理店は極めて厳しい状況だ。熊本県の調査では、宿泊、日帰り客数と外国人宿泊客数は年々、増加（平均2％）している。熊本県支部としても、「貸切バス新運賃制度の導入」に伴う課題はありつつも、熊本県の調査報告に基づき、県支部独自の「地旅」の造成、販売にさらに取り組む。

大分県

### 待望の東九州自動車道 観光面での活性化期待

高橋光昭支部長

待望の東九州自動車道（北九州～大分～宮崎）が今年3月末までに椎田南IC～豊前IC（7キロメートル）を除き開通の予定。大分～北九州が1時間45分（40分短縮）、大分～宮崎が2時間50分（80分短縮）、佐伯IC～延岡南IC（62キロメートル）は無料区間となる。大分を中心に北九州、延岡、日向、宮崎方面のアクセスが大幅に改善され、大分～宮崎間の高速路線バスも検討されており、交通状況の改善や観光面での活性化が期待されている。

香川県

### 高松～上海、台北増便 訪日客で観光需要増加

西岡宏之支部長

新年明けましておめでとうございます。

昨年は四国八十八ヶ所開創1200年の記念の年であり、県内外や海外からも巡拝客があり、各寺ではイベントが開催された。

今年は、高野山開創1200年の記念の年で、引き続き県内の巡拝客の高野山参り需要が見込まれる。また、香川県内では高松～上海および高松～台北各路線の増便により訪日外国人の増加による各観光地や宿泊の需要増が予想される。

岡山県

### 総社市の「鬼ノ城」 ブレークに期待

松田良治支部長

消費増税の昨年は旅行取扱客数の減少に歯止めが掛からず今年もその傾向は続く。企業など団体客の利用は依然低調だが、近隣諸外国や国内への個人旅行は増加傾向。高級志向のクルーズ旅行なども人気で2極化がますます進んだ。今年も大幅な利用増加は期待できないだろうが、対面による旅行サービスの提供や趣味の旅行など特色を出し選ばれる会社にならないといけない。着地型旅行では総社市の「鬼ノ城」のブレークに期待する。

奈良県

### 本気でもっと熱く お客さまを元気に

中川宜和支部長

新しい年を迎える今こそ「やる気」から「本気」で取り組む時。旅行企画も求められている企画などは頭の中では分かっていてもなかなか行動実践されない。できない理由よりもできる理由を書き出し、目標達成までいくつもの途中の楽しみも作って少しでも我々プロがお客さまに何をしてあげるかをあと一歩前に踏み出し、本気で自分らしくもっと熱くを基本に「お客さまに元気を与えること」を目的とすることが求められている。

宮崎県

### 東九州自動車道の開通 観光にかなりの効果

松葉藤吉支部長

日本全体の景気は上向く。しかし、円安が進み、国内旅行に比して、海外は燃油が下がったとしても好調に推移するとは思わない。旅行業界はネットの依存が高まり、ネットに依存しない旅行業者にとっては厳しい状況に変わりはない。宮崎県では、東九州道の大分蒲江～佐伯間が3月に開通し、延岡～大分～鳥栖～福岡が全線高速でつながる。県北～福岡は1時間短縮され約4時間で結ばれるので、観光にはかなりの効果が期待できる。

愛媛県

### 一次産業中心の愛媛 団体旅行は減少

大塚　周支部長

海山に恵まれた愛媛県内の産業は柑橘類栽培、漁業、養殖業など一次産業が中心で、その多くは利益が出ておらず、団体旅行は減っている。学校関係も少子化で思わしくない。消費税が8％に上がったため個人旅行の動きも鈍い。好調なのは外国人旅行だが、その恩恵は大手のみで、中小旅行会社は受け入れにからんでいないのが実情だ。今年の観光業全体の景気としては、良くて昨年並み、悪ければ2％減ぐらいになると予想している。

広島県

### 広域観光ルート提案し 外国人観光客を誘致

花岡正雄支部長

政府の地方創生プランには外国人観光客の誘致もある。中国地方では、県境や地域ブロックの枠を超えた広域観光のルートを進めたい。例えば道後温泉、別府温泉と連携し、瀬戸内海の船旅を造成する。中国山地には上質のスキー場が多くあり、同時に神楽が盛んで、伝統文化への誘いができる。これらを組み合わせれば立派なツアーになる。各県支部長が協力すれば必ずや成功する。地方分権の時代は地方のわれわれが主役となるべきだ。

和歌山県

### 高野山開創1200年や 国体の効果に期待

桃原哲生支部長

和歌山県の今年の観光トピックスは、上半期は世界遺産の霊場高野山開創1200年記念大法会、下半期は紀の国わかやま国体と障害者スポーツ大会があり、観光も含めた経済効果が期待される。また、関西の玄関口である関西空港ではロサンゼルスとバンクーバーの北米2路線の復活やセブ島への新規就航とLCCの便数拡大などで訪日外国人の増加とともに、円安で高くはなっているが、関西からの海外旅行の増加も期待したい。

鹿児島県

### 観光活性化フォーラム 開催などで「日本晴れ」を

大熊信久支部長

新幹線効果が落ち着き、観光客や旅行者の多様化するニーズに、旅行業者はこれまでの慣例に捉われない自由な発想での商品造成や経営を求められている。本県では10月に第30回国民文化祭、また年度末には当支部が現地実行委員となる「第11回国内観光活性化フォーラム」の開催を控えているため、下期は県内各地で交流人口の増加と盛り上がりが見込まれる。

これらを機に、全会員の力で「日本晴れ」を引き寄せたい。

高知県

### 豊富な山海の食で 誘客に取り組む

山中盛世支部長

緩やかな景気回復は続くと思うが、増税が先延ばしとなって、今後の消費動向がどうなるかだ。

高知県は自然を生かした豊富な山海の食を売りとして客の誘致に取り組む。国際情勢の安定化と国内の景気動向にもよるが、外国人観光客を中心に旅行需要は上向く。

大都市圏と地方の格差が広がり、高知県は全国的にも、過疎化と人口減少が急激に進んでいる。このような厳しい経営環境にあって、会員も懸命に頑張っている。

山口県

### 「花燃ゆ」の効果で 萩の知名度が上がる

津野地裕二支部長

1月4日から始まるNHK大河ドラマ「花燃ゆ」は、吉田松陰の妹が主役で、萩が物語の舞台。萩の知名度が上がり、観光客が増えると期待している。7、8月には「世界スカウトジャンボリー」が開催され、世界からボーイスカウトが集まる。そうしたお客さまに着地型旅行「地旅」を提案したい。消費税が8％に上がった影響も秋には薄れるだろう。心配材料は貸切バス運賃の値上げだが、得意とする地域密着の企画でカバーしたい。

鳥取県

### ありのままの鳥取 観てもらうチャンス

馬場　進支部長

特別な行事予定のない今年の鳥取県。ありのままを観ていただくチャンスかも。山陰海岸ジオパークはエリアを広げて世界再認定。八社巡りの干支羊神社は鳥取市内聖さん。砂の美術館のテーマはドイツ。地蔵峠、花見潟墓地も新鮮。食べ物ならイカ、モサエビ、カニ。逸ノ城が高校時代に食べたバカツ丼、砂場コーヒー、牛骨ラーメン、ジビエ料理もうまい。米子鬼太郎空港、鳥取砂丘コナン空港へどうぞ。ベタ踏み坂越えてウェルカニ。



沖縄県

### 尽きない観光の魅力 沖縄は今年も元気

堤　朗支部長

沖縄観光は今年も元気がある。昨年は年間700万人近くの観光客が沖縄を訪れた。何と24カ月連続で10％の伸びを続けている。

原因はいろいろあるが、リピーター率が78％という高率の裏には、尽きない観光地としての魅力が満載だ。特に、昨年、沖縄でのリゾート挙式を挙げた組数が1万3500組もあり、観光収入に大きく寄与した。

しかし、沖縄が抱える基地問題も今後の動向が気になる。



福岡県

### 地の利を生かし 韓国、中国を売る

森岡敏夫支部長

昨年、福岡県はNHKの大河ドラマ「黒田官兵衛」にあやかり、また、ハウステンボスなどのテーマパークのリニューアルにより景気も活気づいた。

今年は韓国と国交正常化50周年を迎え、全旅協各支部では交流ツアーの企画もあり、また、中国とのトップ会談により明るい展望も見えてきた。

この機に乗じ福岡からは地の利を生かし、上半期は薄曇りから、下半期は晴れという見通しを期待した。



徳島県

### 会員の知恵と協力で 時代変化に追い付け

大谷　稔支部長

零細企業が中心の地方は、大企業本位の業績短観とは状況が異なる。上半期は、地方格差が一段と進み、景気は厳しく、統一選挙による影響も避けられない。反動により下半期は多少上向きになる。支部会員の多数は零細企業であり、代表者の高齢化、事業所の閉鎖などの問題も抱えている。顧客の旅行志向、行政の観光事業の考え方との差も表面化し、時代の変化に追い付いていない。知恵を出し、協力体制を強化する運営を心掛ける。



島根県

### 出雲大社や石見銀山 今年もブームは続く

小河英樹支部長

島根県内の今年の観光動向は、一昨年の出雲大社大遷宮および宮家とのご成婚で引き続き、出雲大社のブームは衰えず、世界遺産である石見銀山の入場者数も増加するだろう。

また、今年のNHK大河ドラマ「花燃ゆ」は、吉田松陰の妹が主人公で、山口・萩市が舞台となっており、萩、津和野は大幅な観光客の増加が見込まれる。